

令和の時代始まる

改元にまつわる市内の動き

新天皇の即位に伴う「元号を定める政令」の施行に伴い、5月1日から新元号「令和」の時代が始まりました。日本中に祝賀ムードが漂う中、市内でも改元にまつわる行事や動きがありました。新元号に沸く長門市の一日をご紹介します。

天皇陛下ご即位に伴う 記帳所を設置

天皇陛下の御即位に敬意を表すため、5月1日(水)から6日(月)までの間、市役所本庁舎に記帳所が設置され、期間中、180人の市民が記帳に訪れました。



5月1日に戸籍届の 受付窓口を開設

5月1日(水)は、改元の日と大安が重なり、全国的に婚姻届の提出が多く、

長門市でも改元にあわせて開設した戸籍届の臨時受付窓口にて、7組の婚姻届の提出がありました。

婚姻届を提出した夫婦に、改元にあわせて婚姻届を提出した理由を聞いたところ、「平成の時代に生まれ育った私たちなので、結婚という第二の人生は新しい元号でスタートさせたかった」「改元の日ということ、記念日がとても覚えやすい」との答えが。また、どんな家庭を築きたいですか？という質問には、「笑顔が絶えない明るい家庭に」「感謝の気持ちを大事にし、周りにもいい影響を与えられるような開かれた家庭に」と話してくれました。

なお、この日に婚姻届を提出した夫婦には、記念として日付やメッセージなどの入った「木のたまご」が贈呈されました。

令和生まれの赤ちゃん

時代が平成から令和に変わり、令和生まれの赤ちゃんも誕生しています。東深川在住の山村孝蔵さん・望さんは、5月2日(木)の早朝2時59分に3、012グラムの元気な赤ちゃんとしてこの世に生を受けました。

母親の望さんは1日の夕方に陣痛が始まり、翌日の早朝に出産。生まれたばかりの我が子を抱きしめて、「とても嬉しかった」と喜びを語りました。父親の孝蔵さんは「元気で生まれてきてくれて感動しました。何事もなく元気で育ってもらえれば」と我が子の健康やかな成長を祈っていました。



▲令和生まれの渚さん(写真右から2人目)

「令和」フォトブースを 道の駅センザキッチンに設置

道の駅センザキッチンに、5月1日(水)4日(土)、5日(日)の3日間、新元号「令和」フォトブースが設置されました。

このフォトブースは、「令和」の文字が書かれたパネルを掲げ、記念撮影ができるように作られており、訪れた市民や観光客らが、「令和」や「長門」と書かれたパネルを掲げ、思い思いのポーズで記念撮影を楽しむ姿が見られました。



▲500組を超える参加者が記念撮影

新時代の夜明けを見よう 青海島高山に登山

新しい時代の夜明けを見ようと、5月1日(水)、市民14人が青海島高山に登りました。早朝4時30分に登山口を出発。小雨が降るあいにくの天候の中でしたが、一行は頂上を目指して登り、5時20分に頂上へ到着。この日の、日



▲和田星矢さん・石津香織さん

令和元年5月1日に入籍 結婚おめでとうございます

当日、婚姻届を提出された夫婦の中から、了承が得られた5組をご紹介します。 ※旧姓で記載しています



▲三根良介さん・百合野孔子さん



▲福田昌史さん・板村妃恵さん



▲山崎太郎さん・正木めぐみさん



▲野村一貴さん・西浦智美さん

「令和」関連商品も発売

元号の変更に伴い、「令和」関連商品も市内で発売されました。市内の練り製品製造販売会社では新元号を祝う「令和」のかまぼことちくわを開発。沖繩から関西までの量販店で販売されました。



▲令和関連商品

改元こぼればなし 霊鳥白雉の碑

真木台の丘にある大歳社の境内に、「霊鳥白雉の碑」が建立されています。大きな石をいくつも積み重ねた独特な石碑で、碑には孝徳天皇の御代の大化6年(650年)に献上された白雉がきっかけで改元が行われたこと、この碑を建てるに至った経緯が刻まれています。

白雉伝説のもとになった『日本書紀』の記述の要旨は次のとおり。

一白雉元年(大化6年)2月、長門の国(古称は穴戸)の麻山(おのやま)で白い雉を捕らえた。国司の草壁連醜経(くさかべのむらじこふ)は、早速朝廷に献上した。朝廷ではこれを吉兆として、元号を「大化」から「白雉」に改めた。そして醜経に高い位と多くの禄を与え、長門の国の税も3年間免除した一

この記述の中では、麻山の存在・位置はどこか特定されていません。真木の白雉伝説は、花尾山のふもとに残る古い地名「一ノ小野(市ノ尾)」、「二ノ小野」、「山小野(山小根)」などの、「おの」にちなんだ地名から生じたものと思われます。しかし長門国内には渋木に限らず、俵山、美祢のほか「おの」の地名は多く、研究者の間でも、いまなお麻山の位置は解明されていません。



▲真木の大歳社にある霊鳥白雉の碑

(出典：長門のいしづみ)